

令和6年度第2回茅ヶ崎市ジェンダー平等推進計画協議会 会議録

議題	(1) 茅ヶ崎市ジェンダー平等推進計画の進捗状況について（答申）（案）について (2) 茅ヶ崎市ジェンダー平等推進計画の進捗管理における関連事務事業の評価シート（記入例）について
日時	令和7年2月13日（木）14時から15時30分まで
場所	茅ヶ崎市役所分庁舎5階コミュニティホール A会議室
出席者氏名	会 長：松葉口 玲子 副会長：山田 秀砂 委 員：小室 典子、池田 エミ、鈴木ひとみ、金子 朋子、裏 龍二、岩壁 俊彦、 安藤 茂、鈴木 和美、榊原 敦 (事務局) 文化スポーツ部多様性社会推進課 河野課長、小見課長補佐、久保主任
会議資料	・ 令和6年度第2回茅ヶ崎市ジェンダー平等推進計画協議会次第 ・ 資料1 茅ヶ崎市ジェンダー平等推進計画の進捗状況について（答申）（案） ・ 資料2 茅ヶ崎市ジェンダー平等推進計画の進捗管理における関連事務事業の評価シート（記入例）について ・ 資料3 令和6年度第2回茅ヶ崎市ジェンダー平等推進計画協議会事前意見聴取の結果 ・ 参考資料1 茅ヶ崎市ジェンダー平等推進計画の指標と実績値
会議の公開・ 非公開	公開
傍聴者	なし

【議題1】 茅ヶ崎市ジェンダー平等推進計画の進捗状況について（答申）（案）について
協議の結果、承認された。

【議題2】 茅ヶ崎市ジェンダー平等推進計画の進捗管理における関連事務事業の評価シート（記入例）に
ついて
協議の結果、承認された。

会議録

○事務局（河野課長）

令和6年度第2回茅ヶ崎市ジェンダー平等推進計画協議会を開催いたします。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。

それでは松葉口会長本日の議事進行をよろしくお願いいたします。

○松葉口会長

それでは、令和6年度第2回茅ヶ崎市ジェンダー平等推進計画審議会を開催いたします。

まず事務局の方から出欠や傍聴、議事録確認など事務連絡をお願いいたします。

○事務局（河野課長）

会議の開始に際しまして、欠席者はおりませんので、茅ヶ崎市ジェンダー平等推進計画協議会規則第5条第2項の規定により、過半数の出席をいただき、開催要件を満たしております。

また、本日は傍聴の申し出はございません。

それでは、次に本日の会議の進め方などについて事務局よりご説明をいたします。

○事務局（小見課長補佐）

本日の会議時間については1時間程度を目安とさせていただきます。限られたお時間となりますが、活発なご議論をお願いできればと思います。毎回のお願いとなりますが、発言の際は挙手をしていただいた上、お手元のマイクの真ん中にあるスイッチを入れていただき、お名前を言ってから発言をお願いします。

併せて、本日の資料の確認をさせていただきます。

事前にお送りさせていただきました資料は、次第、資料1「答申（案）」、資料2「評価シートの記入例」、資料3「意見聴取の結果」です。

また、本日皆様の卓上に置かせていただきましたのが、委員名簿、参考資料1「計画の指標と実績値」について資料として配布させていただいております。

以上、不足などございませんでしょうか。

また、本日の議事録の確認及び署名につきましては、名簿の順としております。今回の署名委員は鈴木ひとみ委員にお願いしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

○鈴木ひとみ委員

はい。

○事務局（小見課長補佐）

よろしくお願いいたします。事務局からは以上となります。

松葉口会長よろしくお願いいたします。

○松葉口会長

それでは議題1「茅ヶ崎市ジェンダー平等推進計画の進捗状況についての答申（案）」について事務局から説明をお願いします。

○事務局（小見課長補佐）

それでは議題1「茅ヶ崎市ジェンダー平等推進計画の進捗状況についての答申（案）」について事務局よりご説明いたします。

本答申（案）につきましては、令和6年度第1回の協議会において委員の皆様からいただきましたご意見を踏まえ作成したものととなります。また、委員の皆様におかれましてはお忙しい中、事前の意見聴取にご協力いただきましてありがとうございました。

いただきましたご意見は事前に送付いたしました資料3「令和6年度第2回茅ヶ崎市ジェンダー平等推進計画協議会事前意見聴取の結果」としてまとめさせていただきましたので併せてご確認ください。

それでは次に資料1の「茅ヶ崎市ジェンダー平等推進計画の進捗状況についての答申案」をご覧ください。事前にお目通しいただいているところではあると思いますが、本答申（案）には、茅ヶ崎市ジェンダー平等推進計画の策定の経緯をはじめ、ジェンダーギャップ指数2024における日本の現状の分析、本市が実施いたしましたジェンダー平等社会に関するアンケート調査から見る男女の地位の平等についての現状について言及しつつ、令和5年度の関連事務事業の実施状況とその結果より、本計画の5つの基本目標ごとの進捗状況を答申（案）としておまとめさせていただいております。

事前に委員の皆様よりいただきましたご意見をもとに、当初答申（案）に加筆修正した箇所についてご説明いたします。

はじめに答申（案）の2ページ目にあります基本目標1「人権を尊重したジェンダー平等の意識啓発の推進」の2段落目の最終行をご覧ください。

安藤委員より、「基本目標1の人権を尊重したジェンダー平等の意識啓発の推進の本文中に人権作文・絵画コンテストの受賞作品の展示について、市民ふれあいプラザでの展示は絵画のみの開催でありましたので確認をお願いします。また、北朝鮮パネル展示については、拉致被害という言葉を入れた方が良いと思います。」とご意見いただきましたので、事務局にて担当課に実施状況を確認いたしまして、ご意見いただいた通り修正をしております。

続きまして鈴木和美委員より「基本目標3のあらゆる暴力の根絶について、DVなどの暴力の背景には、の後にある固定的性別役割分担意識が根強く残っている。社会的理解の不十分と2点の記載がありますが、DVの背景には、加害者の生育歴や社会経済的問題もかなり大きな原因になっている研究結果があります。ジェンダー平等的な観点以外にも記載が可能であれば、例えば、親が子育てしやすい環境の整備、貧困の解決や就職支援等の充実化を求めるといような文言を盛り込めないでしょうか。」といただきました。

こちらの御意見について、修正内容をご説明いたします。答申（案）の3ページから4ページにかかりますが、基本目標3「あらゆる暴力の根絶」の2段落目の1行目をご覧ください。DVなどの暴力の背景には、固定的性別役割分担意識が根強く残っていることや、暴力に対する社会的な理解が不十分であるこ

とに加え、様々な要因があるといった旨を追記しております。あわせて、こちらの目標の最終段落部分で、福祉や子育て関係課などとの連携についても追記をしております。

また、子育てしやすい環境を整備すること、貧困の解決や就職支援等の充実化についての追記に関しましては、当初答申（案）に既に記載がありますので、記載場所についてお示しさせていただきます。

ページが前後いたしますが、3ページ目の基本目標の2「ワークライフバランスの促進」の3段落目をご覧ください。こちらに親が子育てしやすい環境の整備についての記載がしております。

続きまして5ページ目の基本目標の4「生涯を通じた健康づくりと安心して暮らせる社会づくり」の3段落目をご覧ください。貧困の解決や就職支援等の充実化については、こちらに記載しております。

当初答申（案）から皆様からのご意見をいただいた結果変更した点についての説明は以上となります。

また、こちらの答申（案）は本協議会での審議を終えた後、市長へ答申させていただくとともに、関連事務事業を実施する庁内関係課かいにもお示しさせていただく予定となっております。

事務局からの説明は以上となります。よろしくお願いいたします。

○松葉口会長

議題1「茅ヶ崎市ジェンダー平等推進計画の進捗状況について答申（案）」についてご質問がある方は挙手をお願いいたします。

○金子委員

全体的に女性という言葉が多過ぎるのかなというのが私の印象です。例えば、まず4ページの中段ですが、暴力に関する相談しやすい体制づくりについて、女性のための相談室とありますが、女性だけに限らないのかなと思いました。

また、令和6年4月に施行された困難な問題を抱える女性と記載ありますが、ここにも女性とありますが、男性もあるのかなと思います。

それから、基本目標4のところで女性特有の疾患と記載がありますが、今男性の方にも特有の疾患はあると思いますので、「女性」という言葉が少し多過ぎるのかなと思いました。

5ページについても、基本目標5の中段にある「女性の職業生活における」と記載があり、また、「女性の参画ができる社会を目指しています。」とあります。その後も、女性委員比率の向上の記載があり、現状を書かれるのはいいのかなと思いますが、1番下の段の「働きたいと思う女性が意欲を失わず」と書いてあり、またここでも女性と記載があり、その後に「性別に関わりなく」という言葉が入っていますがそれを記載するのであれば、女性という言葉はここまで入れる必要があるのかなと思いました。茅ヶ崎市としてどのように思っているのか教えてください。

○松葉口会長

それでは事務局より説明をお願いします。

○事務局（小見課長補佐）

金子委員ありがとうございます。女性という文言について説明させていただきます。

基本的には今回作成させていただいた答申（案）は、ジェンダー平等推進計画の中で5つの基本目標と12個ある目標ごとにカテゴリーを分けてまとめたものとなっております。その各目標は、前計画のちがさき男女共同参画推進プランに、ジェンダーや人権に関することを盛り込み、現在のジェンダー平等推進計画となったという流れがございます。

また、暴力被害という側面においては被害に遭うのは、女性が多いというところもあり、女性に関する目標を位置付けているところであります。また、法律の名称に「女性」という言葉が含まれていることや元々本計画の目標に女性の参画を掲げていることもあり、答申（案）としてまとめさせていただくにあたり、引用している形になりますので、若干女性という言葉が多くあるような印象を持たれているのではないかと存じます。

また、女性のための相談室について、「被害者は女性だけではないのではないか。」とご意見をいただきました点については、相談者の状況に応じて、庁内にある市民相談課や神奈川県が運営する男性のためのDV被害の相談窓口や民間の支援団体等にお繋ぎしており、女性のための相談室や多様性社会推進課や市民相談課に問い合わせなどあった場合は、適切な相談窓口にご案内できるような体制を持っておりますので、ご理解ください。

○松葉口会長

それでは皆さんはいかがですか。

「女性、女性」と書かなくてもいい社会を目指しているのが、このジェンダー平等であると思います。男と女と分けるのも本当はどうかなのかという問題も今ありますが、分けた時に、女性の方が圧倒的に先ほどデータもありましたが、男性と比較すると参画率とかが低いということで、「まずは、女性から何とかしていきましょう。」という、そういう初歩的なステップのひとつなのかなということで解釈すれば、何とか解釈はできるのかなとは思いますが、いかがでしょうか。

○山田副会長

確かに女性なのですけれど、女性のことばかり前に出していくと反対に「女性だけではないよな。」というように思う方たちがかなり増えているような気がしています。以前はそれでよかったのですけれども、今後はもう少し人権と非常にリンクしているところの方が重要じゃないかなと思いますので、女性、男性というよりは、人権に対する考え方として、やったらどうでしょうか。そちらに重きをシフトしていくべきではないかなというように常々思います。もう女性が女性がと言え言えほど引かれるという感じがするので、そこら辺は少し考えたほうがいいと思います。

○松葉口会長

そのような時代に入ってきていると私も思います。敢えて女性というところを削除しても、文章的におかしくなければ削除するというのも方法としてはありだと思います。ただ、女性という言葉削除してしまうことによって、焦点が分からなくなってしまうというところもあると思いますので、その辺をどうするかという問題もあると思います。

○事務局（小見課長補佐）

いただいたご意見を踏まえまして、法律の名称や元々ジェンダー平等推進計画の基本目標の4と5は女性の参画を掲げていることもあり、ある意味固有名詞的な形で本計画の中に盛り込まれて策定されている部分についてはそのままに、それ以外の部分のところで、字句の整理というような形で不要な部分は削除し、可能な限り対応できる点について検討したいと思いますのですが、いかがでしょうか。

○松葉口会長

そうですね。事務局としても大変だと思いますので、こちら側から提案した方がいいだろうと思いますがいかがでしょうか。後、答申（案）の元になっている計画の黄色の冊子からもう数年経っていますが、時代の流れもあるので、それを一応ベースにはしなきゃいけないのですけれども、くどすぎるところもあると思うので、もう少しトーンをファジーな感じにした方がいいかもしれないなと思いますよね。

例えば、5ページの基本目標5の2行目について、「誰もがその個性や能力を発揮できることは、職業生活における女性の活躍」とありますが、これは「誰もがその個性が発揮できることは、欠かせないことであり」とかに修正できないでしょうかね。

「女性の職業生活における活躍に」とまで書かなければいけないのかどうかとか、思ったりしました。

また、4ページの法律のところはね、変えようがないと思いますが、それに関連している4ページのその法律の3段落目の「女性のための相談室」というものがありますけど、女性のためだけではないのも必要ではないかのご意見ありますけど、これはもう女性のための相談室と最初からそういう名称となっているわけですよね。だからこれは、変えようがないですね。

あと、その下に括弧書きで法律が2つ記載ありますは、変えようがないということになると思います。

○事務局（小見課長補佐）

今のところは、この基本目標5にあるとおり、ジェンダー平等推進計画自体が、いわゆるDV防止法の市町村計画として位置付けられており、また、女性の女性活躍推進法における市町村の推進計画として複合的に位置付けられております。今回の基本目標5には、女性活躍の市町村計画に該当する部分があり、女性の活躍というところを敢えて、計画の文言や目標に引用しているという経緯もございます。

○松葉口会長

削りようがないってことですね。

○事務局（小見課長補佐）

そうですね。

○金子委員

最後の5ページ、「働きたいと思う女性が意欲を失わず。」というところも変えられないですか。

○事務局（小見課長補佐）

変えることができます。

○金子委員

その後に、「その能力を十分に発揮できるように性別に関わりなく」と表記がありますが、「性別に関わりなく」としているのに、最初に「女性の意欲を」という部分に矛盾を感じがするので、その修正も必要だと思います。「女性だけが意欲を失わず」というような形に受け取れてしまうので、そこも検討していただけたらいいかなと思いますがいかがでしょうか。

○事務局（小見課長補佐）

例えばですが、「働きたいと思う方」や「性別に関わりなくその能力を発揮できる」というような形にするというイメージでよろしいでしょうか。であれば、可能ですので、答申（案）の文章については、修正いたします。

○松葉口会長

他の委員の皆様はいかがでしょう。

○榊原委員

委員の皆さんのご意見お聞きして、「なるほど。」と思うところもありますが、やはり事務局の方からもご説明あったように、元となっている計画や、前回の会議の中でも数値目標的に、なかなか少ないというようなお話もあったかと思いますので、例えば5ページにあります中段にあります女性委員の割合を40%以上、60%以下という点については、元の計画でもしっかりとした目標ですし、ある程度こういったものをしっかり残してもらおう中で、先ほど金子委員がおっしゃったような点については、整理をしていただくようなことで、良いのではないかと思います。バランスを取った書き方をしていただければいいのかなというように感じました。

○松葉口会長

そうですね。それが一応大前提という感じかなと思いますけれどもね。

女性というよりは、「性差に敏感に。」のような表現の方がもしかしたら良いのかもしれませんが、流れとしてはそういうものがあってここに入ってきているのだらうと私は思いました。

どうでしょう。男性の側から、何か意見はございませんか。

○安藤委員

この女性という言葉をついて、使ってもいいのかなと思います。今、「女性特有の疾患」というこの言葉自体が、もうすでに定着しており、この黄色い冊子にも、そのまま載っていますよね。ですので、先程、榊原委員が言われたようにできるところは整理をしてもらうのが良いのかなと思います。

○松葉口会長

ありがとうございます。

○裏委員

私も一見した時は、女性と書かれている答申の案を見て「男性はどうなの」と思いましたけれど、女性活躍推進などによる法律名に関わる部分となるので、このままで良いのかなと思いました。女性参画というか、人権を尊重したジェンダー平等の意識啓発の推進が9%とか低い状況から見て、女性をクローズアップさせるっていう意味でも女性という言葉が入ってもいいのかなと思いました。

○松葉口会長

本当はね、女性が活躍するためには、男性の家事育児参加とかがここに入ってくるべきものがあるかもしれないなとは思ったりもしましたけどね。

ではそこまで変えなくていいっていう感じでしょうかね。全体的にはもし、具体的にここを変えたほうが良いというのであれば、ぜひ出していただければ、変わると思いますけど。

○山田副会長

ここでそういう話が出たっていうだけで1歩前進というように考えて、今回はこれで。ここにいらっしゃる素晴らしい男性たちはみんな「これでよし」と言っていてくれるので、それはそれでいいかなと。だけれどもやっぱり時代は変わっていくので、そこを念頭に置いて、次年度からまた考えていただくというのがいいかなというように考えています。

○松葉口会長

皆さんそんな感じでよろしいでしょうか。

○池田委員

答申の案に「はじめに」というところで、最初に、今こういう状況なのでというところの説明文があると思いますけれども、今会長がおっしゃったような、「ゆくゆくは、これをわざわざ言わないでいい社会に近づきたい。」というところが盛り込まれていると思うのですが、答申の案の最後とかに一文加えるとしたら、あえて今は女性にクローズアップしていますけど、弱い人とかというところに目を向ける、女性に限らずというところに向かっていくための、今ここで数っていうのに繋がるかなと感じました。

○松葉口会長

そういう時にどのような文章にするかというのが難しいのですよね。それぞれ読み手が様々な解釈をするので。

○事務局（小見課長補佐）

池田委員のご意見について、今回の答申の案の作りとして、はじめにのところが1ページ目にあり、2

ページ目のはじめに部分の最後の段落に、女性という文言のところ、ご意見いただいておりますが、そもそもこの計画は、「人権が尊重して誰もがあらゆる分野に参画し活躍できるジェンダー平等社会の実現」というものが、本計画による目指すべき姿として掲載しているものですので、はじめにの最終段落で、そこを目指していくというところを結ばせていただき、その後ろに目標毎に書かせていただいております。次年度以降は、最後の結びや文章表現については、事務局としても、検討していきます。貴重なご意見ありがとうございます。

○松葉口会長

つまり、はじめにというところ2ページの最後だから、段落で言うと3段落目の上のところに、「これらの状況を踏まえ本協議会で実施した令和5年度の事業及び意見とか人権を尊重した誰もがあらゆる文化に分野に参画し活躍できるジェンダー平等社会の実現を目的とした、本計画の施策の展開に生かされることを期待いたします。」とここの部分をおっしゃったわけですね。

○小見課長補佐

そうです。ここが計画全体の基本理念で目指すべき姿と捉えていただければと思います。

○松葉口会長

それぞれの目標については、後ろに記述が続くということですね。

池田委員それでよろしいですか。

○池田委員

はい。

○松葉口会長

ではよろしいですね。

あと少し細かなことで申し訳ないのですが、1ページのはじめにの7行目、段落で言うと第2段落の2行目の最後ですが、昨年とありますが、これは前年にした方がいいと思います。

○事務局（小見課長補佐）

前年に修正させていただきます。

○松葉口会長

あとは日本語的な問題で申し訳ないですが、2ページの下から7行目くらいに「ジェンダー平等の意識啓発事業として」というところですが、その段落の3行目の最後、「講演会を開催されており」とありますが、「講演会を」であれば、「開催しており」になると思います。細かなことでありますが、確認をお願いします。

○小見課長補佐

「講演会を」を「講演会が」に修正させていただきます。

○松葉口会長

あとは、概ね良さそうなので、事務局の説明のとおり承認ということでよろしいでしょうか。

では、この議題1の茅ヶ崎市ジェンダー平等推進計画の進捗状況についての答申（案）についてはこのとおりといたします。

続いて議題の2になりますけれども、茅ヶ崎市ジェンダー平等推進計画の進捗管理における関連事務事業の評価シート記入例について、事務局より説明をお願いします。

○事務局（小見課長補佐）

それでは議題2「茅ヶ崎市ジェンダー平等推進計画の進捗管理における関連事務事業の評価シート記入例について」事務局よりご説明いたします。

資料2「茅ヶ崎市ジェンダー平等推進計画の進捗管理における関連事務事業の評価シート記入例」をご覧ください。

昨年度である令和5年度の関連事務事業の評価については、目標数値や直近の数値実績等について未記入の事業が多くあったことを踏まえ、記入例を今回新たに作成しております。

また、見やすさの向上のため事業概要から右側の項目のレイアウトを若干変更しております。

目標数値の欄には、関連事務事業に関する数値目標がある場合は、記入をしていただくこととしております。

記入例の上段をご覧ください。記入例といたしまして、多様性社会推進課では、女性相談事業の一環として、女性のための相談室を運営しており、この相談室の認知度について令和12年度末までに40%を目指すことを茅ヶ崎市ジェンダー平等推進計画の指標としているためこちらに記載をしております。

一方で、下段に記載の女性の視点の災害対策に関する周知啓発事業の部分をご覧ください。令和6年度は、講座「おうち食材で災害食料理、ローリングストック術を学ぼう」を開催し、身近な料理というテーマを通じて地域防災に女性が参画することの重要性についてお伝えをいたしました。本講座は参加者の地域防災への興味関心の醸成を図るとともに、参加者のご親族やご友人などとともに地域防災に参画することを目的としており、この事業自体の数値目標というのは定めておりませんが、間接的には自治会の役員や防災リーダーへの女性の参画の実績値というところに寄与するものと考えております。

事務局といたしましては具体的にどのような取り組みを実施したか、その実績にはなるべく数値やデータを取り入れて評価しつつ、課題及び今後の方向性を検討し、翌年度以降の関連事務事業の実施に活用できるような方法をとりたいと考え記入例を作成いたしました。

これらを踏まえ、事前に松葉口会長よりいただきましたご意見として、「目標値もなく実績の記入も少ないのが非常に残念だと。これまで何年も同様のことをやっているのだから経年変化がわかるようにしていただく必要があると考えます。直近の実績には、それがいつのデータかっていうところを記載いただかないとわかりません。」といただいております。そちらについては、目標数値や実績の部分については関連事務事業によって、数値でデータ化し振り返ることが難しいものもございます。そのため、実績と課題

及び今後の方向性の欄について、これまでよりも詳細に評価を各課に記入していただけるような形としております。

また、関係課かいで実施する関連事務事業の評価基準日は、次年度行うものについては、令和7年3月31日時点の今年度を基準として入力をしていただくことを予定しております。

なお、関係課かいにおける個別の事情でデータの集計時点が異なる場合は、その旨がわかるように評価シートに記入することといたします。

また、関連事務事業として実施するものの具体的な取り組み内容は年度ごとに変わる場合もございますので、関連事務事業の経年の評価のみで比較するのではなく、茅ヶ崎市ジェンダー平等推進計画に基づいた取り組みの成果を把握するための指標となる数値目標や目標値のある事業などを活用しながら、数値的な経年推移を見ていただければと考えております。

評価シートの記入例は来年度、年度が変わったタイミングで今年度の取り組みを各課に評価していただくシートとして、各課に記入していただく際の参考として記入例を活用し、今回評価を記入いただいた内容よりも、より詳細なところを取りまとめできるように改めましたので、これを利用して、評価を行っていただけるような形で考えております。事務局からの説明は以上となります。よろしくお願いします。

○松葉口会長

基本的な質問で恐縮ですが、事業評価シートは今年度の実績と、それを書いてもらうわけですよね。それを書いてもらったものを、私たちはどういう作業をすることになりますでしょうか。

○事務局（小見課長補佐）

今年度と同様に、まず年度が変わりましたら、多様性社会推進課でこの関連事務事業に位置付けられた関係管かいに、「本評価シートに令和6年度の取り組みの入力をお願いします。」という形で、全庁的な照会をかけさせていただきます。

それを多様性社会推進課の方で取りまとめまして、今年度の第1回で皆様にお示しさせていただいたように、目標ごとに本評価シートが入力されて取りまとめたものを、次年度の第1回の協議会でお示しさせていただく予定でおります。

令和6年度の取り組みが、どうだったのかというのをまた改めて委員の皆様にご審議いただき、いただいたご意見踏まえて、来年度末の答申に向けて、事務局の方で動いていくというような1年間の流れを予定しております。

今回、作成した評価シートによって、関係課かいが評価をとりまとめたものは、次年度の第1回の協議会でお示しする予定でございます。

○松葉口会長

そのように動くということですね。また、改善していただいてありがとうございます。

私が「もう、とにかくわからない。」と言ったので、この参考資料1の方も経年変化がわかるものを出していただいたという感じですよ。このように出していただくと改善されているのか、改悪されているのかというところがあるので、経年変化を見たいということで、事務局には答えていただけて、大変

ありがたく思います。ありがとうございました。

それでは皆様の方からいかがでしょうか。

○小室委員

大きく改善されていてよかったです。意見が反映されているなというのは感じましたが、この記入をするときの視点や重点的なポイントであるとか「今こういうことで」とご説明いただきましたけど、それを各課かいに示すということはされないのでしょうか。それは前回の協議会の時にも伝えましたが、書き方について教えてください。

○事務局（小見課長補佐）

今回皆様にご確認いただく、この評価シートの記入例がご了承いただけたら、この記入例とともに各課かいに6年度の評価をお願いしますという照会を次年度に実施します。その照会の依頼文の中にこの記入例を参考にしながら、協議会の皆様からいただきましたご意見として「協議会での評価にあたって、ある程度実績値だったりデータだったりが必要である。」という点が重要であると事務局として理解しておりますので、関係課かいには、「できるだけ詳細に書けるところについては、書いてください。」とわかるように記入例と一緒に照会を依頼させていただこうと考えております。

○小室委員

本当にその通知が一番ポイントになるもので、「各課かいがどういう反応を示すか」というところを私たちは見たいので、その依頼を、よりわかりやすく伝えていただければと思います。

○事務局（小見課長補佐）

はい。また、今年度使った評価シートの記入例、今回の協議会でお示しさせていただいた記入例で大分ボリューム感が増えている、変わっているというように事務局としては捉えております。本計画がスタートしてから、次回の評価が2回目となりますので、各課かいの反応も見ながら進めていけたらというように思っておりますので、よろしくお願いします。

○山田副会長

素朴な質問ですが、こういう評価シートが各課かいに行きますよね。そうするとその各課かいのどのような方たちがそれを見て、「こうなっている。」だとか、「ここについて私はこう思う。」などの意見を取りまとめているのでしょうか。また、その中のどれぐらいのパーセンテージの人が、この照会を見ているのか知りたいです。

○事務局（小見課長補佐）

具体的なパーセントまではお示しはできませんが、基本的にはその関連事務事業に位置付けられている事業を担当している職員から始まって、最終的にはその課かいを取りまとめる課長まで確認されて、課としてのご意見という形で評価シートが多様性社会推進課に戻されるというようなイメージになります。

○山田副会長

なるほど。何となく課の中でもいろんな意見があると思いますが、その意見を取りまとめて課として出してくれるとすごくわかるなというように感じます。実態も出てくるのかなと思いますが、いかがでしょうか。

○事務局（小見課長補佐）

これまでも正式に多様性社会推進課から、関係課かいへの照会へのご協力について依頼し、回答をいただいています。関係課かいでその担当者が評価シートの案を作成し、最終的には課かいの意見として、オーソライズされたものが提出されるというような形となります。

○山田副会長

はい。わかりました。

○松葉口会長

いや、こういうのは、本当難しいところであると思います。アンケートは「適当に答えればいいや。」みたいなのが極端な話あるわけですね。それぞれの課でその男女平等やジェンダー平等とかにちゃんと意識を持っている人がいらっしゃればいいのですが、異動もしてしまうでしょうね。そうでないと、魂がこもっているか、どうかというところが問題で、単に回答を提出するだけだったら、精緻性も変わってくると思います。経年変化を見るときに、一定の定点で取ったものであれば、その経年変化のデータは正確に読めますが、誰が答えたのか、その課かいと言っても、何人もいるわけですから、その誰がどのように答えているのか、ずれている場合は、経年変化が出てきてもデータとしての信憑性は薄いので、正確なことは読み取れないということになります。要は、データが無駄になってしまうと思います。やっている作業は、たくさんの膨大な作業になると思いますが、「その作業が生かされるのかどうか。」というところについて、無駄な作業をする危険性はあるなとここ数年感じていました。それぞれにこうやってもらってはいるのだけれども、表には出てくるのだけれども、私自身は、それをどう読み解いて、「茅ヶ崎市としての一番の課題は何なのか。」っていうところが、見えないという印象を持っています。ある意味、このジェンダー平等推進を進める課がイニシアティブを取って、それぞれの課かいに「多様性社会推進課の方針としては、こうなのでそれに関するデータとしてはどういうものがあるか。そういうものを出してください。」というようなことをきちっと伝えていかないと、あやふやなデータが出てきてしまいます。つまり、「やっていますよ。」という実績だけは出てきますが、「なんか、魂がこもってなくて、何が課題で何を改善すればいいのかが見えてこない。」というようなことになってしまうと思います。だから、そうならないようにするためにはどうすればいいかと考えると、どう伝えて、誰にお願いするのか、また、どのようなデータを出してもらうのかというところを適切に示さないと意味がないと思いますので、そのあたりを今、委員の方もおっしゃってくださっているのだと思います。

○事務局（小見課長補佐）

先ほどの評価シートの記入ポイントについては、関連事務事業に位置付けられている関係課かいの長が出

席する茅ヶ崎市ジェンダー平等推進会議という庁内会議の場で周知を行っています。また、この庁内会議は、多様性社会推進課を所管する文化スポーツ部長が会長となり、副会長に多様性社会推進課長を置きその他の構成メンバーとして、子育てや産業やその他の様々な関係課かいで組織されています。その庁内会議を連携強化の場として活用しながら、関連事務事業に位置付けられている実施担当関係課かいの職員にはジェンダー平等や男女共同参画の視点についての理解を深めていけたらと事務局としても考えております。また、各課からの評価シートもよりよいものになる形を取っていきたいと考えています。

○松葉口会長

そうですね。ぜひ、力を入れて、心がけてやっていただければありがたいと思います。

○小室委員

以前は庁内会議の方々と委員の方々との懇談会があったじゃないですか。予算の関係からそういう日程が取れないってということで、現在はなくなってしまったと思いますが、あれがすごく充実して、有意義だったと思うので、何年かに1回ぐらいはそういうチャンスを視野に入れて計画を立てていただければなどという希望があります。

○事務局（小見課長補佐）

これまでの経緯で懇談会のようなものが開催されていたということもありますが、審議会の開催回数に制限があり、全2回の中で評価から答申まで行うにあたり、計画の進行管理をする上でのどのような形態で実施することがより効果を生み出せるかというところが課題かと捉えています。

過去に実施していたものが良かったということも参考にさせていただきながら、全2回という審議会の回数も限られた中で、成果を出すための手法について事務局として検討していきたいと考えています。

ただ、全2回の中で皆様に集まっていただく懇談会のような場を設けるとするのは、現実的には難しいので、それに代わるやり方があるのか、この限られた時間の会議で何か別の方法があるのかなど、他にも庁内には様々な審議会等がございますので、参考とし検討していきます。

○松葉口会長

そうですね、逆に今おっしゃってくださったような限界の中で、「こうすればいいんじゃないですか。」のような提案がもしあれば、委員の皆様から提案していただいた方がいいかなと思いますけれどもいかがですか。

○小室委員

全庁会議に出られている課長方たちは、かなりジェンダーについても勉強している方が多くて、私たちもすごくいい学びになりましたし、市政にとってもプラスになったと思います。

そのため、全庁会議で話題になった話を私たちのところに知らせていただける、何かツールじゃないですが、こういうことが話として、話題として取り上げられ盛り上がったというような話を少しでもいいから知りたいかと思っています。

○松葉口会長

それはいかがですか。

○事務局（小見課長補佐）

ただ今、小室委員からご意見をいただきましたが、今年度第1回の審議会でジェンダー平等社会に関するアンケート調査のクロス集計をお示しさせていただきましたが、これは実は、先程ご説明した庁内関係課かいを集めた会議において「クロス集計を実施したらいいのではないか。」というご意見をいただきましたところと、今皆様が参加されている協議会においても同様なご意見をいただいたというところでありましたので、クロス集計を実施したという経緯がございます。今後の進め方に参考にさせていただく部分も当然ありますし、そのようなご意見が出されて可能なものについては、協議会の場でも共有させていただきたいなと思っています。

○松葉口会長

小室委員よろしいですか。

○小室委員

はい。

○松葉口会長

では、他いかがでしょうか。

○鈴木和美委員

次にこの評価シート見られるのは、次回の第1回ということになると思いますが、2年でこの審議会の委員は解散になりますが、この評価シートは、任期満了後に協議会の委員でなくても見ることはできるのでしょうか。

○事務局（小見課長補佐）

評価シートについては、本協議会が市の附属機関となっておりますので、審議会のホームページで毎回、会議が終わった後に、資料や会議そのものの記録を会議録としてホームページで情報公開しています。会議録とあわせて会議の場でお配りしている資料についても、個人情報等が含まれないものについては、基本的に公開いたしますのでご確認いただけます。

○鈴木和美委員

はい。わかりました。

○松葉口会長

それでは、私から意見を良いでしょうか。

この評価シートには、やったことの事実が出てくるわけですが、例えば小室委員がおっしゃってくださったこととも関わるとは思います、「もう少しこういう事業をやってください。」のような話とかが、今回あんまり話せる機会がなかったような感じがします。過去にそういうことをやっていた時に、私が言ったのは、例えば、基本目標5の災害の方ですが、「女性の視点の災害対策」と出ていて、ローリングストックの災害料理をテーマにされていて、参加者は女性だけで男性はゼロであったというところに、事業自体にすごくジェンダーバイアスがかかっている印象があると私は思いました。

だから私は、委員になった当初に「事業自体にジェンダーバイアスがかかっているのは問題だ。」という発言をしたのですが、それがやっぱり改善されてないなという感じがしています。だから、本当に女性の視点を課題としても「災害対策に女性の視点を入れる必要性」とありますが、これはつまり、意地悪な見方をすれば、「女性に料理をしろ。」ということなのかと思われてしまう可能性があります。ジェンダーの専門家が見ればきっとみんなそのように捉えられると思います。

それから、記入例の上の方の女性相談事業もいいのですが、さっきもその女性の相談というところをね、金子委員も仰ってくださいましたけど、これ相談するだけじゃ駄目で、相談してやっぱり解決策を示さないと、きちっと保障していくような事業をやるべきだと思います。それがこの事業計画の中にはないわけですよ。「相談して終わりか。」というような感じで、例えば、神奈川県的女性センターが実施しているようなスキルをつけていくような、啓発だけじゃなくて、社会に出て、何かそれを生かしていけるような講座を実施するとかそういうところに発展させていくことが必要ではないかと思います。

それから今回の答申は、事業計画に基づいたものだから仕方ないですが、今すごく年金の問題なんかも明らかになっているように、なぜ女性の年金が少ないかと言うと、結局働いてないから、雇用保険に入っていないから、それが生涯にわたって女性の貧困状態に繋がってしまう訳なのですね。

評価シートの記入例の下、災害も女性に食事を作らせるなんていうことがアンペイドワークですし、要是しっかりとペイドワークとして雇用保険で保障してもらえるようなことというのが、この答申のところにも入っていないわけです。「それが女性の活躍なのか。」という感じに思えてしまうわけです。「アンペイドワークで女性は活躍してくださいね。」というような感じになってしまうのではないかと非常に憤りを感じてしまいました。なので、ジェンダー平等を推進する課として、評価シートの雛形として示すものが、このジェンダーバイアスがかかっているような事業を出してしまうということが、一昔前のものを見ているという印象を受けます。「茅ヶ崎市としては、それでいい。」ということであればいいのですが、私個人的にはそのような印象を感じてしまいました。

また、事業に関しての提案はどのタイミングで伝えればよかったのか機会がなかったなと思いました。

○事務局（小見課長補佐）

防災の講座については、決して女性限定で募集したわけではなかったのですが、結果的に男性からの応募がなかったというところでございました。

また、計画の目標のところに位置付けられている女性の防災や国とかであれば防災会議のメンバー構成への女性参画につなげられたらと考えておりました。

また、「こういう事業をやった方がいいのではないか。」や「こういう取り組みが必要なんじゃないか。」というところについてのご意見は、第1回の協議会の場に、その前年度の評価シートの一覧として

取りまとめられたものが上がってきますので、その評価シートを見ていただいた時に、この目標を達成するためのご意見をいただければと思います。そこで出たご意見については、その次の第2回の協議会でお示しする答申（案）のところに、入れることができると考えております。

次の第1回ではそのような形で委員の皆様からの評価シート以外のところの意見も踏まえて、活発にご意見を出していただけるような形で実施できたらと思います。

○松葉口会長

はい。ありがとうございました。あとは、皆さんからはいかがですか。よろしいですか。

○山田副会長

評価シート記入例の防災の事業に関してですが、出席者を見ても割と若いお母さんは入っていませんよね。それが今後の問題点だと思います。若いお母さんたちに入ってもらえるような内容のものを、必ず考えていただきたいと思います。また、事業として、すごく古いことをやっているように思えてしまいます。1つのことをやっていくのにも、時間がかかるのでそれは仕方ないと思っているので、今後実施する時には、若い世代にどのように興味を持ってもらえるかとか、そういう方向で前に進んでいくような考え方を持たないと時代に遅れてしまいますので、事務局には検討していただきたいなと思います。

○事務局（小見課長補佐）

今回この防災のテーマでいうと、料理をテーマにというところで実施いたしましたが、過去には小学生と親御さんが一緒に出てランドセルを持ってきてもらいながら、防災について、考えてもらうような講座を実施したというようなものもあります。様々な目標がありますので、それぞれタイムリーに若い世代に対して意識啓発を図っていくというのはどの目標の中でも、足りてなく、検討の必要がある部分になってくると捉えておりますので、様々な手法やテーマをその都度検討し、できるだけ若い世代への啓発ができるように、講座などの企画の部分も、多様性社会推進課として、考えていきます。今このようにいただいた皆さんからのご意見も参考にさせていただきますので、引き続きよろしくお願いいたします。

○松葉口会長

他はいかがでしょう。それでは、鈴木委員どうぞ。

○鈴木和美委員

私は直接、子育て支援課（現こども政策課）の事業について、以前にご意見を言ったこととかもあったのですが、「予算などの関係で、決められるのは来年度以降になります。」というようなことを言われたことがあります。そうすると、意見の提案をするとしたら、いつまでに伝えると予算に組み込んでもらえるのか分かれば教えてください。

○事務局（小見課長補佐）

例年、9月から10月頃に次年度の予算についての検討が始まります。

多様性社会推進課では、年間を通じて本計画の目標達成のための講座を実施しており、その予算は年度毎にある程度確保しております。その予算でどのような講座を実施することが、ジェンダー平等社会の推進に効果的であるか検討しながら、講座を企画し実施しておりますので、委員の皆様には、適宜ご意見を言っていただければ、企画前の講座等であればご意見を取り入れながら実施していけると思っております。ただ、これまで取組の実績がない新たな事業を何かやるということになると、予算を新たに確保するというところからのスタートになりますので、鈴木委員がご意見をお伝えした担当課からの説明も「その予算を取るところから」というご説明になったのかと思いますので、通常の予算の流れでいくと、9月10月ぐらいで翌々年度のものが動き始めますので、そういったところを1つの目安にしていただけるといいのかなと存じます。

○松葉口会長

どこで、どう言えばいいかわからないですね。

でも、何回も言うというのも1つのコツだとは思いますがね。

今回この評価シートを変えていただいて、大変だったのではないかと思います。事務局の方お疲れ様でした。ありがとうございました。

このように書いてくださって、今後の課題とか方向性についても書いていただくような案となりましたので、ここで何を書いてくるかによって、その課の性質もわかってくると思いますのでそれが少し楽しみだなと思っています。

あと、他にないようでしたら、この議題2「茅ヶ崎市ジェンダー平等推進計画の進捗管理における関連事務事業の評価シートの記入例」についても承認ということによろしいですね。

それでは、これで承認といたします。

最後、次第のとおりその他について、事務局の方から説明をお願いいたします。

○事務局（小見課長補佐）

その他として、今後の協議会の日程等についてご説明させていただきます。

今の協議会の任期が今年の5月末までとなっております。

6月から新たな任期がスタートするということで、ご推薦で委員をお出しいただいている市内関係団体には、改めて次期委員の推薦のご相談、ご依頼をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

市民公募委員の方につきましては、今度の広報紙で市民公募のご案内をさせていただく予定でありますので、そちらもあわせてよろしくお願いいたします。

事務局からは以上となります。

○松葉口会長

今回が任期最後の協議会ですので、それでは、事務局よりひとこと。

（事務局 河野課長より一言）

○松葉口会長

ありがとうございます。

それでは委員の皆様から一言ずついただきたいと思います。

(各委員より挨拶)

○松葉口会長

それでは、令和6年度第2回茅ヶ崎市ジェンダー平等推進計画協議会を終了いたします。

円滑な会議進行に御協力いただき、ありがとうございました。